発達障害の特徴

**注意欠如・多動性障害(ADHD)**

7歳までに、多動－衝動性、あるいは不注意、またはその両方の症状が現れ、そのタイプ別の症状の程度によって、多動‐衝動性優勢型、不注意優勢型、混合型に分類されます。

　（特徴）

日常に支障をきたすほどの「落ち着きのなさ」「集中力のなさ」

忘れ物、大事なものなくすなどうっかりミス繰り返す。

叱られることや、注意されることが多いと自信とやる気を失う。

**学習障害(LD)**

全般的な知的発達には問題がないのに、読む、書く、計算するなど特定の事柄のみが難しい状態を指し、それぞれ学業成績や日常生活に困難が生じます。

　（特徴）

読む・書く・聞く・計算などのある特定分野における理解・能力取得が困難。

叱られることや、注意されることが多いと自信とやる気を失う。

**広汎性発達障害（PDD：pervasive developmental disorders）**

コミュニケーションと社会性の困難さを特徴とする障害。広汎性発達障害は、自閉症・アスペルガー症候群・レット障害・小児期崩壊性障害・特定不能の広汎性発達障害を含んだ総称です。

　（特徴）

物事に強いこだわり

また、感覚が過敏もしくは鈍感なため柔軟な思考や変化への対処が難しい。

　　　　生活習慣や偏食、同じ服を着るなど特徴的なこだわり。

**知的障害**

知的な発達の遅れがある障害。知的障害は、「発達障害者支援法」では発達障害には含まれていませんが、自閉症など発達障害のある人の中には知的障害を伴う人も少なくない。

　（特徴）

学習やコミュニケーション、認知の困難。また生活能力・適応能力にも

困難さが見られる。

　様々なことを並行して行うことが苦手。

　業務内容をより具体的にかつ細分化して伝える必要あり。